

〔「東京おひさまベリー」の育苗・定植技術の改善〕
露地イチゴ「東京おひさまベリー」の早期（９月下旬）定植の効果

海保富士男・大槻優華・木下沙也佳・野口 貴*・吉原恵子
（園芸技術科）*現農振事

【要 約】「東京おひさまベリー」の仮植苗を９月下旬に定植すると、１０月中～下旬定植より収量が増加する。また、仮植をしない苗でも、９月下旬に定植すると仮植苗程度の収量を得ることができる。

【目 的】

昨年までの結果、「東京おひさまベリー」では、仮植苗を通常の１０月中～下旬より早い上旬に定植すると増収すること、仮植無の苗でも１０月上旬に定植すると通常定植の仮植苗と同程度の収量を得られることがわかった。そこで、さらに早い時期（９月下旬）の定植の増収効果を確かめるため、仮植の有無および定植時期を変えて栽培する。

【方 法】

「東京おひさまベリー」を供試し、２０２３年８月２９日に仮植した。仮植した苗（仮植有）および仮植を行っていない苗（仮植無）を９月２１日、２８日、１０月５日および２５日に株間３０ｃｍの２条千鳥で定植した。２０２４年３月７日に黒マルチを敷設した。施肥は、成分量で $N:P_2O_5:K_2O=13:24:13$ kg/10a を施用した。１区１０株の３反復で収量、品質の調査を行った。

【成果の概要】

- １．本年の栽培期間の天候は、気温が全体に高めに推移した。とくに、９月と４月の気温は高かったが、３月の気温はかなり低かった（表１）。また、例年になく収穫期の５月の降水量が多かった。
- ２．収穫開始日は、仮植の有無、定植日による処理区の差がなかった（表２）。総収量およびＡ品とＢ品を合わせた可販果収量は仮植有、または定植日が早いほど多かった（図１）。そのなかで、仮植無の９月２１日区と２８日区は、仮植有の１０月２５日区と同程度の収量があり、とくに仮植無の９月２１日区では、仮植有の９月定植両区と差がなかった。
- ３．総収穫果および可販果の収穫果数は、収量と同様に仮植有、または定植日が早いほど多くなった。そのなかで、仮植無の９月２１日区は、仮植有の１０月５日と２５日区と収穫果数に差がなかった。
- ４．総収穫果および可販果の１果重は、仮植無、または定植日が早いほど大きかった。総収穫果の仮植有・１０月２５日区で１果重が小さかったほか、仮植の有無、定植日による処理区の差はみられなかった。
- ５．果実品質については、硬度、糖度、酸度は、仮植の有無および定植日による処理区の差がなかった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

９月下旬定植は増収効果があるが、１ヵ月ほど圃場の占有期間が伸びるので、作付け体系や作目の変更などが必要となる。

表1 2023年9月～2024年5月の平均気温

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
平均気温(℃)	28.7	17.9	13.1	8.0	5.9	7.2	8.7	16.5	19.4
平年差(℃)	+3.1	+0.4	+1.3	+1.2	+1.4	+1.8	-5.2	+2.7	+0.9
降水量(mm)	225	107	63	15	39	70	204	98	164
平年比(%)	91.0	47.0	75.0	25.0	69.0	134.0	179.6	80.0	123.2

測定場所: 東京都府中市

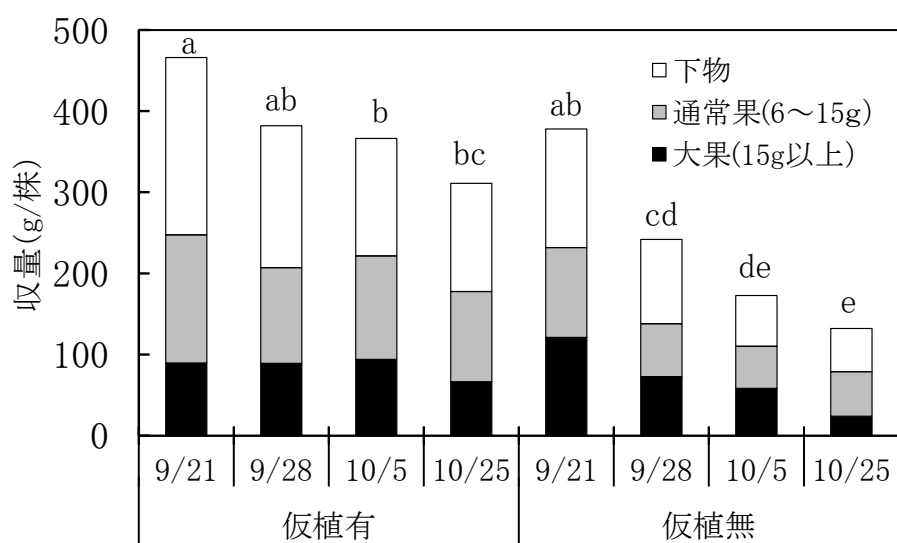


図1 仮植の有無および定植日が収量に及ぼす影響

Tukeyの多重検定により異なる文字間に有意差あり。

表2 仮植の有無および定植日が収量, 果実品質に及ぼす影響

処理区		収穫 開始 (月/日)	総収穫果		可販果		果実品質		
仮植育苗 (A)	定植日 (B)		果数 (個/株)	1果重 (g)	果数 (個/株)	1果重 (g)	硬度 ^a (kg)	糖度 (%)	酸度 (%)
有	9/21	4/30	55.5 a	8.4 ab	21.7 a	11.4 ns	0.42 ns	9.2 ns	0.63 ns
	9/28	4/30	41.4 ab	9.4 ab	16.1 abc	13.0	0.41	9.4	0.67
	10/5	5/1	39.9 b	9.2 ab	18.6 a	11.9	0.41	9.4	0.64
	10/25	4/30	41.8 ab	7.4 b	16.4 abc	10.9	0.40	9.3	0.67
無	9/21	5/1	38.5 bc	9.9 a	16.5 ab	14.0	0.40	9.0	0.64
	9/28	4/30	24.3 cd	10.1 a	9.9 bcd	13.9	0.41	9.3	0.69
	10/5	4/29	17.5 d	9.9 a	8.3 cd	13.2	0.41	9.5	0.69
	10/25	4/30	16.3 d	8.0 ab	7.2 d	11.0	0.42	9.7	0.68
A			**	*	**	*	ns	ns	ns
要因効果 B			**	**	**	**	ns	ns	ns
A×B			ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns

Tukeyの多重検定により異なる文字間に5%水準で有意差あり。

要因効果において*は5%水準, **は1%水準で有意性あり, nsは有意性なし。

a) 果実硬度計(円錐型Φ12mmプランジャー)の陥入抵抗値